

本質的な問い

私たちはふるさと安浦とどう関わり、どのように生きるのか。

単元名

災害から守ろう 安浦 ～私たちが安浦のためにできること～

児童生徒の実態

○「災害がおきた場合どのような行動をとれば適切か判断し行動できますか」というような問いに対して、90%の生徒が肯定的な回答をしている。しかし、実際の場面を想定し、行動することについては具体的な記述はできていなかった。
○「あなたは、災害が起こったときの避難意識は高いですか。」という問いに対して、81%の生徒が肯定的な回答をしている。しかし、災害に対して何らかの備えができていない生徒は50%しかいなかった。これは、防災に対する意識が十分ではないことや、具体的な場面を想定することができていないと思われる。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・防災や被災時の行動についての知識・技能を身につけている。（知識・技能）
- ・情報収集し、体験することを通して整理・分析し、自分たちができることをまとめ、表現している。（思考・判断・表現）
- ・探究的な学習に、主体的、協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。（主体性）
- ・安浦町の一員として、郷土のために役立とうとしている。（感謝・貢献）

単元を貫く問い

災害に対して、中学生として何ができるか。

【探究課題 防災のための安全なまちづくりとその取組】

【第3次】（7時間）

課題 小学生や地域の人に「みんなで学ぼう（防）災カルタ」を作って紹介する。

地域の方

小学生

個別の問い

- ・自分がとるべき行動やできることが地域に伝わるようなカルタにするためにはどのように表現したらよいただろう。

（しかけ）
今まで学んだことをもとに災害発生時に自分には何ができるか再考するようにさせる。

【第2次】（13時間）

課題 避難所シュミレーション（HUG）を使い、課題を見つける。

個別の問い

- ・避難所の生活はどのようなものだろう。
- ・避難してきた人が少しでも快適に過ごすためにはどうすればよいただろう。

避難所シュミレーションゲーム HUG

（しかけ）
避難所シュミレーションゲームのHUGを使うことで、グループ内での話し合いができるようにするとともに、全体での交流ができるようにする。

【第1次】（5時間）

課題 避難所生活と防災にまつわる知識や技能を身につける。

自衛隊の方から救急の方法等を学ぶ。

保護者

個別の問い

- ・災害が起こる前に必要なものは何だろうか。
- ・家庭で準備しているものは何があるか。
- ・災害にあってしまった時、できることは何だろうか。

地域

（しかけ）
・西日本豪雨災害の碑から当時を振り返る。
・自衛隊の方を招聘し、いざというときの方法を学ぶ。

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
 - ・解決の道筋がすぐには明らかでない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
 - ・活動をこなすだけになっていないか。
 - ・児童生徒から問いを生み出すしかけがあるか。
 - ・学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
 - ・第1次だけで構成していないか。
 - ・第1次のまとめと第2次の課題設定がつながっているか。